

# AAC入門

新潟大学教育学部

長澤正樹

# 1. AACとは

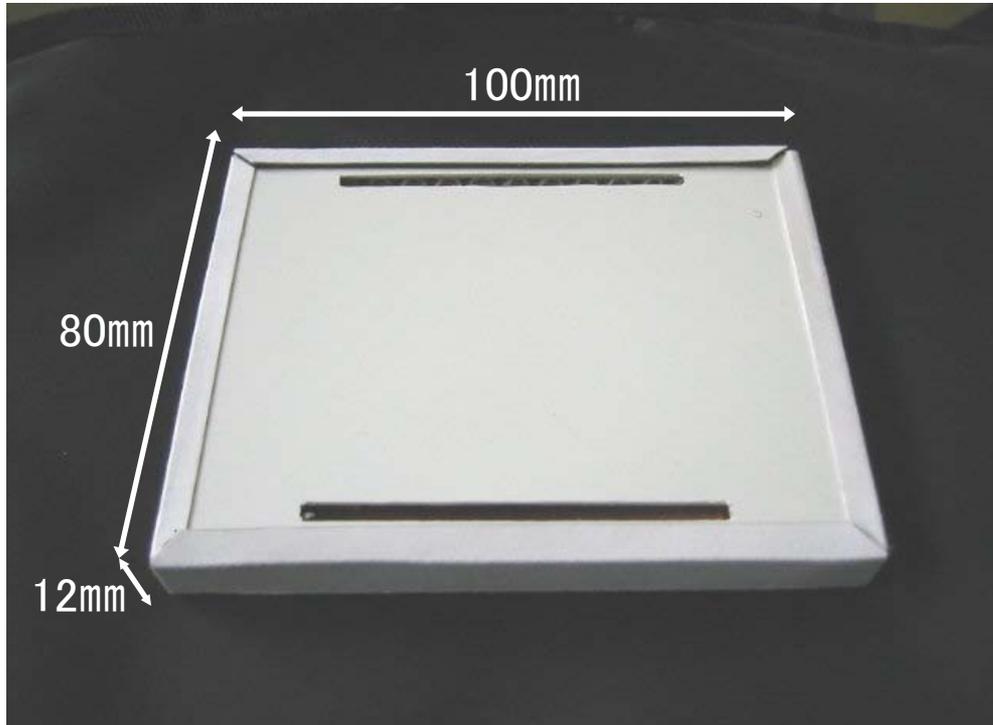
- 様々な原因により、はなしことば(以下、ことばと略す)の獲得や使用に著しい困難を示す人々を対象に、各種の非音声系伝達手段をことばの補助、または代替として積極的に利用するアプローチ
- Augmentative and Alternative Communicationの略
- 発展の要因
  - ノーマリゼーションの進展: 治療から支援へ
  - コンピューター等電子技術の発展

障害者観の転換

# 私(長澤)とAACの出会い

- 重心病棟で勤務したとき(1981～1983)
- 大学院時代(1985～1986)
  - AAC(ノンボーカル・コミュニケーション)
  - コミュニケーション・ボードの実践
  - 修論(身振りサインの実験)
- 知的障害特別支援学校(1987～1996)
  - 重度重複障害、自閉症の子どもへのサインの指導
- 大学で: 科研費によるトーキングカードの開発

# トーキングカードの開発



## 改良点

- ・軽量化・薄型化
- ・耐衝撃性の向上
- ・再生スイッチ部面積の拡大

本体のサイズ	80mm(縦) × 100mm(横) × 12mm(厚さ)
再生スイッチ部のサイズ	70mm(縦) × 90mm(横)
録音／再生時間	20秒
本体の重量	約50g

## 2. AACの基本要素

- 個人のコミュニケーション能力を促進し、拡大するための複合的なシステム

話しことば(音声言語)でなくとも、コミュニケーションはできる

- 言語表出と言語理解の補助・代替

自分の意思を伝える、相手の意志を理解する

- 基本要素

－ 記号、エイド、テクニック、方略

# AACで用いられる主な記号

	音声系	非音声系
補助系	人口合成音声 デジタル処理音声	実物 絵、写真 図形、シンボル 文字
非補助系	スピーチ  Niigata Univ. - Nagasawa Labo.	表情 視線 身振り 手指サイン

# エイド、テクニック

- エイド、テクニックとは
  - エイド:伝えるための補助手段
  - テクニック:メッセージを効率よく入力・構成したり、伝えたりする特殊な技法
- 実際には
  - コミュニケーションボード
  - VOCA: Voice Output Communication Aid(トーキングエイド, DekTalkなど)



トーキングエイド

Niigata Univ. - Nagasawa Labo.

# 方略

- 記号、エイド、テクニックを使ってコミュニケーション能力を高めるための、周囲の指導支援方法
- (例を見てみましょう！)

# PECS (Picture Exchange Communication System)



Niigata Univ. - Nagasawa Labo.

# 指導プログラム

1. 絵カードをコミュニケーションパートナー(CP)に渡し、欲しいものを受け取る
2. 離れたところにある絵カードを取り、離れたところにいる(CP)に渡す
3. 複数の絵カードから、欲しいアイテムの絵カードを選択する
4. (以下略)

計画的、系統的、組織的に指導することが必要

### 3. 理想的なエイド利用条件： AACにおけるコミュニケーション

- 必要なコミュニケーション機能全般に貢献できること
- コミュニケーションの話題、範囲、効率を制限しない
- コミュニケーション以外の活動と両立できること
- すべての環境と姿勢において利用できること
- 発達を可能にし、促進できること
- 相手のコミュニケーションニーズやパターンを考慮すること
- 周囲の人々にも受け入れやすく魅力的であること

自然なコミュニケーションが保障されていること

# 4. AAC導入と使用のために

# 個別の指導計画

短期目標	指導方法	場所	指導者	評価
アイコンを指し示して意志を伝える	欲しいものをいくつか用意し、指し示したアイコンのものを与える	ことばの教室・専門機関	ことばの教室担当者・AAC専門家	・検査による評価 発達検査 言語能力検査など  ・カリキュラムに基づく評価  短期目標をチェックリスト化
トイレの絵カードを指さして、尿意を伝える	時間を見て、促す	学校 家庭	担任 両親	
トランポリンの絵カードを指さし、プレイルームに連れて行ってもらう	授業が終わったとき、子どもの反応を待つ	学校 (休み時間)	介助員	

日常生活の中の、あらゆる場面、機会に指導する

# 専門機関との連携

- 専門機関の役割
  - － 専門的な診断、訓練、機器の提供、評価など
- 学校、家庭の役割
  - － 日常場面での機器の使用(訓練)、般化
  - － 子どもの生活の質の充実を保障
- 連携を保障する条件
  - － コーディネーターの存在
  - － 個別の教育支援計画の策定と評価

子どものニーズに機器を合わせる(カスタマイズ)  
そのために専門機関を交えた支援チームを組織する

# これから、最新のAACの取り組み に注目しましょう！

- Voice4u
  - <http://voice4uaac.com/jp/>
- DECTalk
  - <http://www.youtube.com/watch?v=8pewe2gPDk4>

# 文献

- 藤野博(2009): AACと音声言語表出の促進- PECS(絵カード交換式コミュニケーション・システム)を中心として。特殊教育学研究,47(3),173-182.
- 小島哲也(2001): 補助代替コミュニケーション。大石敬子(編) ことばの障害の評価と指導。大修館書店、110-128.
- 長澤正樹(1997): 自閉症児の言語訓練における個別教育計画と指導の形態の分析。新潟大学教育学部紀要,39(1),11-17.